

J-CLIL 輪読会

7. Designing materials for CLIL

Ball, P., Kelly, K., & Clegg, J. (2015).

Putting CLIL into practice.

pp.172-208

Chizuko Aiba

於) Waseda University

December 2, 2017,

7章の構成

- **Overview** (概要)
- **Time and inspiration** (時間とインスピレーション)
- **Personal investment** (個人的に役立つ労力投入)
- **Guidelines and criteria for CLIL**
(CLILの指針と基準)
- **Seven principles** (7つの原則)
- **Summary** (まとめ)

Overview

(概要)

- 明快 (clear)かつ支援的 (supportive)な指導教材を使い学習者同士が相互に作用しながら (interacting)学ぶ方法を詳しく見ていく。
- 章の大半はCLILの教材をデザインする際の7つの原則とその説明・分析で構成されている。

Time and Inspiration

(時間とインスピレーション)

*教材デザインをめぐる問題点

効果的な教材を作成するには、**時間**も
注意力も必要である。

→多くの教員は忙しく時間がない。

→教員の中にはインスピレーションも持ち
合わせないことが多い。

Time and Inspiration

(時間とインスピレーション)

* 教材の選択

- 国家カリキュラムで決められていることもある。
- 指定がなければ、教員の個人的な選択で決める。
- 教科教員、その学部の長、話し合いなどで選ばれるのが望ましい。

Personal investment (個人的に役立つ労力投入)

- 信頼の置けるテキストは教員達に安心感をもたらす。
- 教材を作成(及び使用)する時間と機会を与えられた教員は、皆このプロセスが自分達の個人的な、また専門的な能力の開発に多大なる影響を与えている(Allan, 1997)。

Personal investment (個人的に役立つ労力投入)

- CLILは、多くの場合、教員が教育現場や学習者に合った独自の教材の作成を余儀なくされている。
- 教員がCLILの授業を始めようと思ったら、教材の作成をしなくてはならず、それは大変骨の折れることである。

Personal investment

(個人的に役立つ労力投入)

* テキストの不足

- 出版社は小さなニッチ市場を狙ったこのような教材には積極的に参入しない。
- 科目ベースの本が輸入されCLILのクラスで使用されることがある。
 - 一→言語サポートがないので好ましくない。

Guidelines and criteria for CLIL

(CLILの指針と基準)

- Mehisto (2012)はCLILをベースにした教材の作成の10の原則を作成した。
 - その中の5つがCLILに限定したものであり、これを参考に、新たに7つの原則を作成した。
 - テクスツ(text)よりもタスクが大切である。
 - 良い教材が最高のteacher trainerである。

Seven Principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

タスク優位性(テキストとタスクの関係)

2. Prioritizing the three dimensions of content

内容(コンテンツ)に含まれる3つの要素の
優先順位

3. Guiding input and supporting output

インプットの指導とアウトプットの支援

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

Scaffolding (足場作り) と embedding (埋め込み)

5. Making key language salient

Key language を目立たせる

6. The concept of 'difficulty' in didactic materials

教育を意図した教材の中の「難しさ」の概念

7. Thinking in sequences

シーケンス (sequence) の中で考える

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

タスク優位性(テキストとタスクの関係)

What is a 'task'? (タスクとは何か?)

- Taskはactivityやexerciseとしばしば混同される。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

- 1) タスクとは**教室**のactivityまたはexerciseである。
 - a) 参加者間の**インターアクション**(interaction)によってのみ、その目標が達成できる。
 - B) インターアクションを体系立てて(structuring)、順序立てて配列する(sequencing)ための過程(mechanism)がある。
 - c) 意味のやり取りに焦点が当てられている。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

2) 言語学習の真剣な取り組みであり、
学習者が一連の学習作業を行う上で、
理解する (comprehend) こと、操作
(manipulate) すること、そして/または
目標言語を発することを要求する。

(Lee, 2000)

- 'activity' や 'exercise' がこのような component を
含まない場合、それは 'task' とは考えられない。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

Lee (2000)の‘task’の定義をCLILに焦点を当てた場合、以下のように要約される。

1) A task is **goal-oriented**.

明確な目標を設定している。

2) A task requires **interaction among learners**.

学習者間のインターアクションを要求する。

3) A task requires the interaction to be

‘sequenced’.

インターアクションがシーケンスであることを要求する。

4) A task requires **a set of “work plans”**.

一組の学習作業を要求する。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

[Extract 7.A \(p.177\)](#)

Leeの定義から考えると、これはタスク か？

- 明確な目標をがある→「現在完了形」の理解
- インターアクション(Interaction)がない
- シークエンスがない。
- 一組の学習作業がない。

→→→タスクではない。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

* Leeの'task'の定義がCLILの教材デザイナーの視点から有効な理由

- Goal があると学習者のモチベーションが高まる
- インターアクションが続くことにより、足場作り (scaffolding) ができる
- 一組の学習作業 (a set of work plans) はアクティビティのシーケンスの基礎になる。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

* テクスとタスクの関係(2章を参照)

- ・タスクを明瞭にする。
- ・タスクが中心であり、テキスト(text)は補助的なものである。
 - 一> テクス中心の指導は間違っているとは言えないが、CLILのクラスでは問題が生じる。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

Extract 7.B (p.178)

- このtextを読む理由が与えられていない。
- 生徒が難しいと思うであろう箇所に配慮した説明がない。
=>しかし生徒はタイトルから何についてかは理解できる。
- 生徒はこのトピックの前知識 (pre-existing knowledgeやschemata) がないままクラスに参加している。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

[Extract 7.B \(p.178\)](#)

=>問題点の解決法は？

- はじめに内容に関する質問をする。
- このトピックは考える価値があることを伝える。
- ペアークワークでbrain storm などさせる。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

* タスクを事前に取り入れると

- ・生徒は**何をすべき**かすぐにわかる。
- ・単に生徒に情報を与えるのではなく、まず生徒に**考えさせる**ことができる。(帰納的)
- ・教員が生徒の**考える力を尊重**する。

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

* タスクを事前に取り入れると

- 生徒間のインターアクションが必要となる。
- 生徒が専門用語に出会う前に、それについて考えることを奨励できる。
- 生徒にtextを読む理由を与える。
- 教員が簡単なscaffoldを生徒に与えることもできる。
- タスクの活動がインターアクションを促進させる

Seven principles (7つの原則)

1. The primacy of 'task' (the text-task relations)

Extract 7.C (p.180)

13才向けsoft-CLIL用のスペインの本
入門段階のタスクである。

3ヶ月で50以上のタスクが行われる。

- CLILに適したタスクであると考えられる。

インターアクションが取り入れてある-(初めに
ペアーで次に別のペアー /グループ間で)

- Textはあくまで補足的なものである。

Seven principles (7つの原則)

2. Prioritizing the three dimensions of content

- ・内容(コンテンツ)に含まれる

3つの要素の優先順位

(Chapter 3参照: 11月の大和先生の発表資料
をご参照ください。)

- ・CLILコンテンツの3つの要素とは

一> 概念 (concept)、活動 (procedure)、言語
(language) のことである。

- ・教員はこの3つの要素の相関的な量を必要
(demand)に応じて調整すると良い。(mixing desk)

Seven principles (7つの原則)

2. Prioritizing the three dimensions of content

Extract 7.D (p.182)

タスク Step-1 (Interaction phase)

この章で取り扱う内容を示す。
インターアクションが必要となる。
(答えを与えているので会話は初歩的なものである。
Scaffoldがされている。)

タスク Step-2 (sit-down phase)

新しい知識に従い空欄を埋める。
最低限の読み・書きを必要としている。
ここでは最上級、受動態、前置詞などが
出てくる。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

インプットの指導とアウトプットの支援

(詳しい内容な5 & 6章参照)

- 教材デザインとの関係において、中心的は要素(Key Factor)である。
- これはCLILだけでなく教育のパラダイム全体に言えることである。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

- 学習者はすべて話すこと、書くことにより自分自身を表現するoutput toolsの獲得が必要である。
- 読むこと、聞くことを効率的に行えるinput skillの獲得が必要である。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

[Extract 7.C \(p.180\)](#)

- ・ 答えの正当性を伝えるために、お互いに意見を交換をすることが求められる。
- ・ 自分が選んだ答えを、まずペアーで、次にグループなどでなど、段階を踏んで話すことで自信をつける。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Dialogic talk

- **Interacting**で学ぶ例として、**dialogic talk** (Alexander, 2008)というのがある。
- これはCLILだけではなく教育現場ではとても大切な学びである。
- これは生徒同士の会話である。Hard CLILの場合、そのような探求的なdialogueも重要で、方向づけ (orientation) 段階で発生しやすい。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.E (p.185)

バスクの産業に関するHard CLIL

- **Scaffolds**: 1. past conditional , 2 modal structure => outputが支援される。
- 必ずしも言語をすべて提供する必要はない。
- Post-task のscaffoldsは、推測段階では足りなかった正確性に焦点を当てている。
- Q3では、話すから書くへ移行するに伴って正確性が向上する。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

逆向きの PPP

- 通常の PPP: Presentation-practice-production
(提示-練習-産出)
 - CLILでは: Produce-practice-present-Produce
(産出し、練習し、提示し、産出する)
- の supporting output が取り入れられる。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.E (p.185)

- 生徒は、産出し、練習し、提示された後で、再び産出する。
- プロセスを順序付け、専門用語を補う機能言語を使って、概念を吸収する。
- 間違えることが推奨される。(間違えた方が言語を生成し、思考を深める。)

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.F (p.187)

- 「ニーズ」という概念枠組みで人類の発明を表現
- 2つのscaffoldがある。
 - 左側gerundを伴う
(stop, prevent, prohibit, ban)
 - 右側 infinitiveを要求
- 正確性ベースの練習 → (mixerで) 言語の音量
↑(up)

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.G (p.188)

- 教科ベースのディスコースを正しく使用
するよう導く。
- 結論を書くためのscaffoldがある。
- 多様な構文、正式な言語(科学的な結
論を書くときに要求される正確性)が含
まれる。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.H (p.189)

- Extensive writing
- 研究プロジェクト(データ収集→構成)
- Step4: 4つの側面に絞るという条件
- Step 5: レポートにふさわしい単語、構文が提示
- 対照する言語(ディスコースマーカー、接続詞、因果関係を示す、話題やトピックを導入する)

(ティーンエイジャーはL1でも自発的に使用しない。)

Seven principles

3. Guiding input and supporting output

Guiding input

- ・リーディングとリスニングはインプットスキルであり、受動的と言われている。
- ・認知的に見ると、能動的な聞き手・読み手の方が学ぶものが多い。
- ・特に教育の場では目的をもって読むことが求められる。
- ・CLILでは「能動的＋目的意識」で優れた発達を遂げる。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Reading

- テクストの長さ、専門言語の量、活動の複雑さに関し、学習者への要求は年々増加している。
- 社会科学は特にテキストが多い

->CLILで扱わない? / 扱う?

テキスト-タスク関係を考慮すれば、目標の概念的レベルを妥協することなく、いかに理解を促進できるかが重要となる。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.I (p.191)

リーディングの支援

1. step1の表がコンテンツを分解(前半、後半)
2. 表がliberalの概念を提供
→新概念に焦点(liberal revolutionについては既習)
3. 表がイデオロギーの二項対立的な性質を反映
(重いテキストを分解)
4. 言語を歴史的ディスコースに限定
テキスト中にあるもの(「階級」など)もあれば、学習者自身が見つけてくるものもある。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.1 (p.191)

- タスクとkey languageによって複雑な概念が理解しやすくなっている。
- 生徒はテキストを理解し、用語を産出し、活動的であるよう促される。
- 活動 (procedure) の要求が下がっても、概念 (concept)・言語 (language) の要求は高い。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract 7.J (p.192)

- ・概念(concept)・言語(language)の難しさを維持しながら、活動(procedure)の要求を下げ、概念を分解しようとする。
- 工場所有者の不満が3つの要因（金銭、時間、条件）によって枠づけられる。
- 生徒は、この3つに注意を焦点化し、どの不満を図に書き加えるかを決める
- リーディングはタスクに従属している。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

[Extract 7.K \(p.194\)](#)

- 歴史の授業のケースにおいて、解決 (resolution) 段階で使用される。
- 概念的な重みを捉える語彙をめぐって活動を組織する。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Listening

- リスニング練習が苦痛である最大の理由は、目的がわからないことである。
- CLILでは、リスニングの「テキスト」は、他のことをするために使用されるべき(テキスト-タスク関係)である
- 重要な原則: 教師が広範なメディアを利用できること。(ただし、メディアだけでは理解も興味も保証されない。)
- CLILシラバスの問題: コンテンツが多すぎる、NNS学習者向けに分解し、消化しやすくする。

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

[Extract 7.L \(p.195\)](#) [Extract 7.K(p.194)に続く部分]

- タスクに一貫性と論理を与える手法
 - 1) Pre-listening 段階 (step1)
 - トピックに内在する低頻度語を埋め込む (trawler, caning など)
 - 生徒はトピックとの関連を判断

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

[Extract 7.L \(p.195\)](#)

2) While-listening 段階 (step2)

前半のQA

産出は求められない。

活動 (procedure) の要求はかなり下がる。

3) After-listening 段階 (step3)

前半の確認 → 後半へ

ペア、グループで話し合う

Seven principles (7つの原則)

3. Guiding input and supporting output

Extract-7.M (p196)

- 途上国から先進国への移民に関する架空議会で発言をする。
- 生徒は賛成・反対を0-10スケールに書き込む。
- 教材7.Lの解決(resolution)のタスクにつなげる。
- 主な目的は、「開発途上」概念の理解を広げる。

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

Scaffolding (足場作り) と embedding (埋め込み)

Scaffolding (足場作り):

明示的な言語支援

* academic, functional language

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

Embedding (状況の中に埋め込む): 暗黙的

- key languageをタスク／アクティビティのシーケンス(sequence)に織り込む。
- 学習者はタスクを行いながら、key languageを拾い上げる。
- 簡略化した言語を使って概念を導入した後、語彙や構文を後続の章でリサイクルし、学習者は何度も目にして自然に使い始める。

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

- L2の意識的な学習プロセスとL1の無意識の獲得 (Krashen 1988)に相当
- 足場づくり(scaffolding)と埋め込み(embedding)は両方同時に行われることが必要である。
- どのように足場づくり(scaffolding)と埋め込み(embedding)のバランスをとるか？

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

[Extract 7.0 \(p.198\)](#) (Scaffoldingの例)

- Information gathering task – Q & A
(情報は後で使われる)
- 言語を意図的に目的に限定し、二次的な可能性を排除
- 指示によって目的を明示
- 活動 (procedure) のコントロール、言語の提示
- 音楽の才能を表わす副詞句が必要。Sequence (順序) が進むと、複雑な目的に使用 (することができる)

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

[Extract 7.P \(p.200\)](#) (Embedding の例)

- 6つのテキストをグラフとマッチング(step2)
- ライティングアクティビティ(step3): 地域の気候を説明
- よい説明文には、このタイプのライティングに内在する語彙と構文が含まれる。
- 気象のテキストの例は、短いテキストとしている。
situated in /on, between the months of,
dropping to minus 4, etc.

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

[Extract -7.P \(p.200\)](#)

- CALPが盛り込まれた典型的シーケンス: 言語が濃密かつ正式
- 埋め込まれた言語と付随する活動は、この言語のいくつかの保持を保証
- 目的は暗黙的、評価は教師の基準にゆだねられる。

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

[Extract -7.Q \(p.201\)](#)

- 実験「ものが溶ける様子を観察する」に必要なステップとリソースを提供
- NS用教材だが、埋め込みの好例
- 活動 (procedure) の限られた動詞：観察から結論を導く科学的手続きにとって重要な動詞

Observe, repeat, record, check, plan

Seven principles (7つの原則)

4. Scaffolding and embedding

[Extract 7.Q \(p.201\)](#)

- プロセスの途中で、学習者は他の言語も救い上げる。

科学的なもの Ice melts at

それ以外: What can you see now?

- 重要語(プロセスの動詞)は埋め込まれ、後続の章でリサイクルされる。

Seven principles (7つの原則)

5. Making key language salient

Key language を目立たせる

- 良くデザインされた教材はkey Language を目立たせて(salient)いる。
- これは、Scaffoldingとembeddingと関連している。

Seven principles (7つの原則)

5. Making key language salient

Extract-7.R (p.202)

- テクストの横に12のキー単語(既習)を明記している。=>これらの語を目立たせている。
- CALPの語彙(歴史に関する語彙)
因果関係を話す場合、不可欠な用語を提示

Seven principles (7つの原則)

5. Making key language salient

Extract 7.S (p.204)

- Step1: 6つの短いテキストを一般的な用語とマッチングさせる。
用語はタスクの性質上、目立っている。
- Step2: 表にリストされた主要な地理用語を対立する用語(テキスト埋め込み)とマッチングさせる。

Seven principles (7つの原則)

6. The concept of 'difficulty' in didactic materials

教育を意図した教材の中の「難しさ」の概念

- ・難しいという感覚は、連続の中にある。
- ・難しい・易しいという感覚はしばしば主観的である。
- ・個人や環境によっても異なる。
- ・内容が難しい、テキストが難しいなど色々あるが、一番肝心なことは**タスクが難しいか**どうかである。

Seven principles (7つの原則)

6. The concept of 'difficulty' in didactic materials

Extract 7.U (P.206)

- ・テキストの内容は難しいが、タスクは、やり遂げることができる (manageable) ものである。
- ・生徒は3Dの内容と言語 (conceptual and linguistic bases) で難しいと感じるであろうが、タスク (procedural base) は難しくない。

Seven principles (7つの原則)

7. Thinking in sequences

シーケンス (sequence) の中で考える

- ・ シーケンスで考えるというこの7番目の原則が **Seven Principles** (7つの原則) の分析の理想的な結論となる。
- ・ CLILは、大きな **シーケンス** (sequence) の一部である。

教育、概念から見て、常に before と after がある。(第2章参照)

Seven principles (7つの原則)

7. Thinking in sequences

- 生徒は知識なくタスクにアプローチできない。
- タスクに取り組む理由が存在しなければなら
ない。
- 理由は、事後('after')の学習段階のロジックを
形作る。
- 言語に関しては、シークエンス(sequence)の
段階がディスコース(教室談話)の性質を決定
する。
- 教師と生徒は、このsequenceの前と後で劇的
に違った言語を使用する。

Seven principles (7つの原則)

7. Thinking in sequences

- ・古典的な物語 (narrative) の構造
方向づけ (orientation)
複雑化 (complication)
解決 (resolution)
がシーケンス (sequence) の影響を考えるのに有効。
- ・1つの授業は、上の3つの **move** が含まれる。
- ・効果的な教材開発を検討する上で、3つが中心となる。

Seven principles (7つの原則)

7. Thinking in sequences

- 方向づけ(orientation)の段階で言語が複雑すぎたり、CALPに傾くと、学習者の動機は失われる。
- 複雑化(complication)の段階で大量のkey languageを導入することが期待される。
- 解決化(resolution)の段階で評価や関連学習などを行うと良い。この段階で新しい語彙を入れることは効果的ではない。

Thank you for listening!

7章を参考に
CLIL教材を
作成してみてもいいかがでしょうか？